



TITLE:

京都大学図書館機構とは

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学図書館機構とは. 静脩 2005, 42(1): 5-7

ISSUE DATE:

2005-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37768>

RIGHT:

京都大学図書館機構とは

. 図書館機構とは？ - 図書館機構の課題 -

創設以来107年の歴史を有する京都大学には、京都大学の発展に伴い、現在、附属図書館・本館以外に大小50余の部局図書館・室が設置されています。

それぞれの図書館・室は、昭和41(1966)年の「京都大学附属図書館報告書」(京都大学図書館改善検討委員会報告)において確認された「調整された分散主義」の原則のもと、それぞれの部局の予算により、それぞれの部局図書館・室の運営委員会により独自に運営されてきました。

ところが、近年、利用者の声として図書館に要望される事項として、「個々の図書館・室で解決を図れる要望」以外に、「複数の図書館・室や全学の図書館が協力しないと解決できない要望」が増えてきています。

また、電子ジャーナルやデータベースの購読に関する経費負担など、個々の図書館・室では解決を図れない課題や複数の部局図書館・室間の調整が必要な課題が増加してきました。

とりわけ、近年の電子ジャーナル購読に係わる調整や全学の大規模遡及入力事業、また、図書系職員の資質向上に関する課題を解決する必要性が

増大しています。

さらに、近年においては、図書館機能を有しない部局または図書館機能を単独で有することが困難な部局が増えてきています。

これらの共通の課題を整理すると

- ・ 必要な学術情報の入手体制の確立
学部学生用資料整備
研究用資料整備(教員、大学院生向け)
- ・ 学内の学術情報の効果的かつ円滑な共同利用体制の整備
- ・ 合理的な共同業務処理体制の確立
- ・ 図書館機能を単独で持てない部局へのサポート体制の整備
- ・ 図書系職員の充実
- ・ 必要財源の確保

にまとめられます。

これらの、共通する課題解決のための総合的・合理的な全学協調体制として、平成17年4月に「京都大学図書館機構」が発足しました。

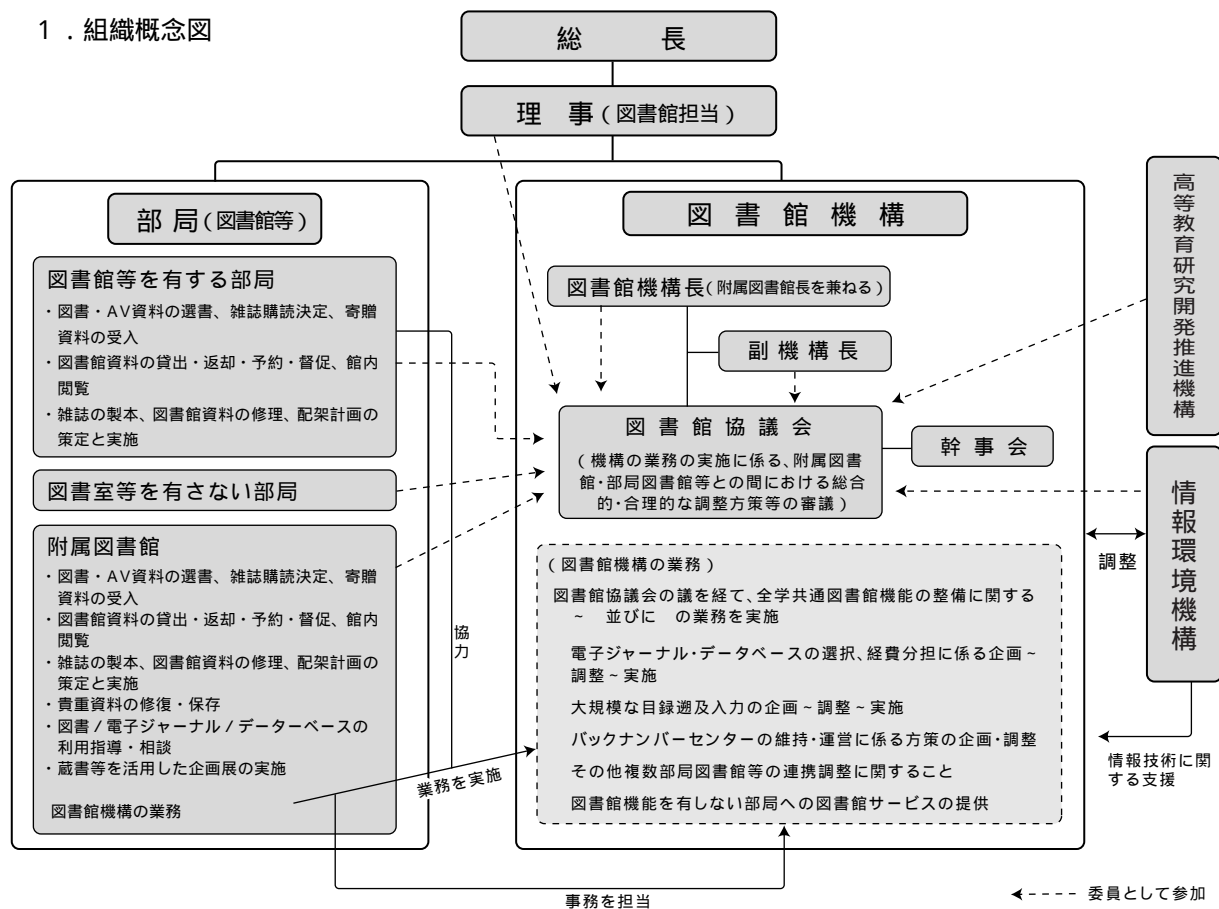
図書館機構銘板除幕式
(附属図書館玄関にて)



(右から) 本間理事、大西図書館機構長、
尾池総長、大林附属図書館事務部長

. 図書館機構の構成

1. 組織概念図



2. 組織と構成

図書館協議会

議長 = 図書館機構長(兼:附属図書館長)

協議員 = 理事(図書館担当)、図書館機構副機構長、宇治分館長、部局選出の協議員、附属図書館事務部長、その他協議会が必要と認めた教員で構成

幹事会 = 理事(図書館担当)、図書館機構長、図書館機構副機構長、宇治分館長、特別委員会委員長、附属図書館事務部長、その他機構長が必要と認めた者で構成

特別委員会 = 必要に応じて設置

理事(図書館担当事務)

丸山正樹

(平成17年10月 -)

機構長

大西有三

(平成17年4月 -) *1

副機構長

森棟公夫

(平成17年4月 -)

*1: 附属図書館長を兼ねる

. 図書館機構の事業

事業名	計画内容
A .サービス	
学内デリバリー・サービス	部局間及び吉田、桂、宇治の3キャンパス間で、資料のデリバリー・サービス体制の整備を図る。
B .蔵書・目録	
学部学生用図書	教育実施体制等に関する重点目標として学生用図書の整備拡充に努め、学習図書館機能を十分に果たせるよう少なくとも学生1人当たり1冊(現在は0.5冊)を目途とし、購入経費を要求する。選書にあたってはバランスを考慮しつつも、計画的に分野ごとに蔵書構成の補強を図る。
大型図書資料	部局単独で購入することが困難で、かつ共同利用にふさわしいコレクションを整備する。
電子ジャーナル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究実施体制整備の重点目標として電子ジャーナルを大学全体の基盤的資料として整備し、本学の研究者が最新の情報をいち早く入手できるようにする。 2. 平成18年度導入計画並びに安定的提供を可能にする経費負担方式を策定する。 3. 認証サーバによる、電子ジャーナルの利用方式を確定し、運用が行えるよう体制を整備する。
データベース	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究実施体制整備の重点目標としてデータベースを大学全体の基盤的資料として整備し、本学の研究者が最新の情報をいち早く入手できるようにする。 2. 平成18年度導入計画並びに安定的提供を可能にする経費負担方式を策定する。
理工学系外国雑誌センター館	研究支援体制の整備の一環として理工学分野の学術雑誌の体系的収集と情報提供に努め、我が国における学術情報流通拠点としての役割を担う。
バック・ナンバー・センター	全学の雑誌の保存計画大綱を策定し、収納効率と利便性の調和を図る。
遡及入力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国立情報学研究所の遡及入力事業に参加し、韓国語資料、アラビア文字資料、人文・社会科学系資料の遡及入力を進める。 2. 全学遡及入力実施6カ年計画(平成15年立案)に従い、部局図書室と協力して全学の遡及入力(第3年次)計画達成に努める。
C .マネジメント・施設・設備	
公開事業	図書館機構の課題である、学術情報基盤整備、電子ジャーナル・データベースの財政基盤の確立などの問題を集集し、理解を図ると共に、京都大学の所有する学術情報の公開展示を行い、社会貢献も図る。
組 織	全学図書館システム構想の検討を行う。
職員の採用・育成・研修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館職員の資質向上のために、長・中期及び短期の研修スケジュールを立案する。 2. 全学の人事制度改革にあわせた、図書専門職制度を立案する。